

日本学術会議だより №.10

第14期最初の総会開催される

昭和63年 8月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議の第14期が7月22日から発足し、7月25日～27日の3日間、第14期最初の総会が開催されましたので、その総会等についてお知らせします。

日本学術会議第105回総会報告

7月22日の第14期の発足に伴い、同日付で内閣総理大臣による日本学術会議会員の発令が行われた（辞令の交付式は、総会日程の関係で7月25日に挙行）。第14期の会員は、選出制度が学術研究団体を基礎とする推薦方式に変わって後、2回目の会員である。この第14期会員による最初の総会である、第105回総会が、7月25、26、27日の3日間、本会議講堂で開催された。

第1日目(25日)。午前中の新会員への辞令交付式に続いて、13時に総会が開会され、直ちに、会長及び両副会長の選挙が行われた。会員による互選の結果、会長には、第13期の会長であった近藤次郎第5部会員が再選された。また、人文科学部門の副会長には、大石泰彦第3部会員が、自然科学部門の副会長には、渡邊格第4部会員がそれぞれ選出された。選挙終了後、近藤会長から、「一生懸命務めるつもりなので、会員の方々の御協力をよろしく願いたい。」との就任のあいさつがあり、また、大石、渡邊両副会長からもそれぞれ就任のあいさつがあった。

総会終了後、直ちに、各部会が開催され、各部の役員である部長、副部長、幹事の選出が行われた。(第14期の役員については、別掲を参照)。

第2日目(26日)。10時に総会が開会され、始めに、近藤会長が、第13期の会長という資格で第13期の総括的な活動報告を行った後、3年間を振り返り特に印象の深いものとして、脳死問題に関する討議、ICSU 総会招致に関連する科学者の自由交流問題、学術会議の予算等について、その所感を述べた。続いて、会員推薦管理会報告として、久保亮五委員長の代理として事務総長が、第14期会員の推薦を決定するまでの経過報告等を行った。

引き続き、会長から3日目の総会で提案・審議する予定の「第14期活動計画委員会の設置について(申合せ案)」に関する各部での事前討議について並びに各常置委員会の委員定数の決定に基づく各部での委員の選出について、それぞれ各部へ付託がなされた。

総会終了後、直ちに各部会が開催され、前述の申合せ案の討議及び各常置委員会委員の選出等が行われた。

第3日目(27日)。10時に総会が開会され、会長から前述

の「第14期活動計画委員会の設置について(申合せ案)」の提案が行われた。この申合せ案は、第14期の活動に関する基本的計画の立案を任務とする臨時の委員会を次の定例総会までの間、設置するという内容を内容としている。この提案は、その構成等に関する若干の討議の後、原案どおり可決された。

総会終了後、直ちに各部会が開催され、設置が決定された第14期活動計画委員会委員の選出等が行われた。

なお、この第14期活動計画委員会は、総会期間中に第1回の会議を開き、全会員を対象にした第14期の学術会議の活動に関するアンケートの実施を決めるなど、早速その活動を開始した。

第14期日本学術会議会員の辞令交付式等について

第105回総会に先立ち、第14期日本学術会議会員の辞令交付式が7月25日(月)10時35分から、総理大臣官邸ホールで行われた。辞令交付式は、まず、第1部から第7部までの会員の氏名が順次読み上げられた後、会員全員を代表して最年長者である山本正男第1部会員が竹下登内閣総理大臣の代理としての小淵恵三内閣官房長官から、辞令の交付を受けた。その後、小淵長官から、第14期会員に対する期待を込めた内閣総理大臣あいさつの代読があり、続いて、山本正男会員から、会員を代表して国民の期待に沿うよう努力したい旨のあいさつがあって、式は終了した。出席会員は190人であった。なお、第14期日本学術会議会員の発令は、第14期の始期である7月22日付けであるが、総会日程との関係で、総会初日の7月25日に辞令交付式を行ったものである。

26日には、午後の各部会終了後、18時から、小淵内閣官房長官主催による歓迎パーティーが本会議のホールで行われた。小淵長官のあいさつがあり、続いて、脇村日本学術士院長の代理としての石井良助学術士院会員から祝辞があった。これに対し近藤会長によるユーモアに富んだ答礼のあいさつがあり、沢田敏男日本学術振興会会長の乾杯の音頭でパーティーが進められ、活発かつ友好的な歓談が行われた。

第14期日本学術会議役員

会長	近藤次郎 (第5部・経営工学)
副会長 (人文科学部門)	大石泰彦 (第3部・経済政策)
副会長 (自然科学部門)	渡邊 格 (第4部・生物科学)
《各部役員》	
第1部 部長	黒田 俊雄 (歴史学)
副部長	北川 隆吉 (社会学)
幹事	一番ヶ瀬康子 (社会学)
"	肥田野 直 (心理学)
第2部 部長	西原 道雄 (民法法学)
副部長	川田 侃 (政治学)
幹事	経塚作太郎 (国際関係法学)
"	山下 健次 (公法学)
第3部 部長	島袋 嘉昌 (経営学)
副部長	大石嘉一郎 (経済学)
幹事	木村 栄一 (商学)
"	則武 保夫 (財政学・金融論)
第4部 部長	中嶋 貞雄 (物理科学)
副部長	田中 郁三 (化学)
幹事	樋口 敬二 (地球物理学)
"	平本 幸男 (生物科学)
第5部 部長	岡村 総吾 (電子工学)
副部長	高村 仁一 (金属工学)
幹事	市川 惇信 (計測・制御工学)
"	藤本 盛久 (建築学)
第6部 部長	江川 友治 (農芸化学)
副部長	中川昭一郎 (農業総合科学)
幹事	飯田 格 (農学)
"	水間 豊 (畜産学)
第7部 部長	小坂 樹徳 (内科系科学)
副部長	水越 治 (外科系科学)
幹事	伊藤 正男 (生理科学)
"	岡田 晃 (社会医学)

(注) カッコ内は、所属部・専門

「対外報告」について

本会議では、第13期になってから、その意思の表出の形態の一つとして、各部・委員会がその審議結果をとりまとめたものを、総会又は運営審議会の承認を得て、外部に発表する「報告」(通称「対外報告」と言っている。)というものができるようになった。ただし、この対外報告は、日本学術会議全体の意思の表出ではなくて、当該対外報告をとりまとめた部・委員会限りのものである。

第13期には、数多くの対外報告が総会又は運営審議会の承認を得て出されている。ここでは、すでに、この日本学術会議だよりで紹介されているものを除いた対外報告の題目のみを以下に紹介する。

- ・物理学研究連絡委員会報告—大型ハドロン計画の推進について
- ・化学研究連絡委員会報告—全国的視野に立つ化学の新しい研究体制について
- ・第5常置委員会報告—公文書館専門職員養成体制の整備について
- ・遺伝医学研究連絡委員会報告—「医学教育の改善に関する調査研究協力者会議最終まとめ」についての意見
- ・第4部報告—上級研究員制度(仮称)の新設について(基礎科学振興・充実のための一方策)

第14期日本学術会議会員の概要について

この度任命された210人の第14期日本学術会議会員の概要を以下に紹介する。(カッコ内は前期)

- 性別 男子 208人 (207人)
女子 2人 (3人)
- 年齢別

50~54歳	5人	55~59歳	39人
60~64歳	85人	65~69歳	67人
70~74歳	13人	75~79歳	1人
最年長	76歳 (77歳)		
最年少	51歳 (48歳)		
平均年齢	63.1歳 (61.6歳)		
- 勤務機関及び職名別
 - 大学関係

国立大学	73人 (101人)
公立大学	5人 (6人)
私立大学	88人 (77人)
その他	1人 (3人)
計	167人 (187人)
 - 国公私立試験研究機関・病院等
8人 (9人)
 - その他

法人・団体関係	13人 (3人)
民間会社	7人 (3人)
無職	15人 (8人)
計	35人 (14人)
- 前・元・新別

前会員	109人 (41人)
元会員	4人 (6人)
新会員	97人 (163人)
- 地方別 (居住地)

北海道	3人 (5人)
東北	6人 (6人)
関東	132人 (134人)
中部	15人 (12人)
近畿	42人 (40人)
中国・四国	4人 (6人)
九州・沖縄	8人 (7人)

(注) 詳細については、日本学術会議月報7月号を参照

- ・第5部報告—工学系の大学における産・官・学の研究協力の在り方について
- ・生命科学と生命工学特別委員会報告—生命科学の研究と教育の推進方策について
- ・情報学、学術文献情報、学術データ情報研究連絡委員会報告—情報学振興総合機構の構想について (中間報告)
- ・商学研究連絡委員会報告—大学における商学教育の課題と方向
- ・電子・通信工学研究連絡委員会報告—通信工学の体系化に向けて

御意見・お問い合わせ等がありましたら下記までお寄せください。

〒106 港区六本木7—22—34

日本学術会議広報委員会 電話 03 (403) 6291

第14期活動計画決まる

昭和63年11月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は、このたび開催した第106回総会において、第14期活動計画と新しい特別委員会の設置を決定しましたので、その概要をお知らせいたします。

日本学術会議第106回総会報告

日本学術会議第106回総会（第14期・第2回）は、10月19～21日の3日間開催された。

今回の総会の主な任務は、第14期日本学術会議の活動の指針となる第14期活動計画を審議し、決定することであった。そのために、「第14期活動計画（申合せ）」と「臨時（特別）委員会の設置について（申合せ）」の2つの総会提案が用意された。

この2つの提案の内容は、前回の臨時総会（本年7月）で設置された第14期活動計画委員会が、慎重に審議を重ねて作成したものであり、またその間に2回の連合部会及び各部会を開いて各会員の意見を聴取の上、調整したものである。

この2つの提案については、第1日目の午前中の総会で、近藤会長から、提案説明が行われるとともに、同日の午後の各部会で審議が行われた。

次いで、この2つの提案は、第2日目の午前中の総会の審議に付され、最終的推議を期す質疑の後、採決が行われ、いずれも圧倒的多数の賛成で可決された（第14期活動計画及び設置された7特別委員会の名称は別掲参照）。

この総会決定により、新たに設置された7特別委員会については、第2日目の午後に開催された各部会で、各部ごとに割り当てられた委員定数により、委員の選出が行われた。

次いで、翌第3日目の午前中には、各特別委員会の第1回目の会議が開かれ、それぞれ委員長・幹事の選出が行われるとともに、今後の審議予定等について審議がなされるなど、早速その活動が開始された。

第2日目の午後には、1時から2時半にわたって「総会中の自由討議」が行われた。これは、会員のための一種の勉強会で、総会行事の一環として行われてきたものである。今回は、第14期活動計画案を審議する過程で、会員間で特に討議が活発に行われ、関心が高かった課題を取り上げて行われた。まず、鳥袋嘉昌第3部会員（経営学）から「学術的・総合研究」について意見の発表の後、関連して、石井吉徳第5部会員（資源開発工学）から発言があり、続いて、井口潔第7部会員（外科系科学）から「人間の科学」について、川田侃第2部会員（政治学）から「紛争学・平和学」について、中川昭一郎第6部会員（農業総合科学）から「農業・農村問題」について、大島康行第4部会員（生物科学）から「IGBP（地球圏—生物圏国際協同研究計画）」について、それぞれ意見の発表が行われた。

第14期活動計画

我が国の科学・技術は戦後目覚ましい発展をとげ、経済の高度成長とともに、国民生活の向上に多大の貢献をしてきた。しかしながら、近年世界的規模での経済・社会環境や地球生態系の激しい変化を背景に、科学・技術の在り方に様々な問題が生じている。その中には、科学・技術と人間との係わり方の根源を問直すようなものや、学問諸分野の再編成を求めるものも含まれている。また、国際社会における我が国の地位の向上も加わって、学術の面での我が国の貢献に対する国際的期待はますます強まっている。

日本学術会議は、創設以来、科学者や学術研究団体との連携の下に、その目的・職務の遂行に努力し、我が国の学術研究体制の整備についての重要な勧告等を行い、研究所の設立などを含めて数々の業績をあげてきた。また、国際協力事業への参加を始めとして、世界の学界と提携しつつ学術の進展に貢献してきた。しかしながら、創設後40年を迎えた現在、学術を取り巻く状況は、国際的にも国内的にも著しい変化を生じた。このような状況を踏まえて、第14期日本学術会議は、本会議の創設以来の基本的精神を引き続き堅持しながら、なお一層の成果をあげるべく努力するものである。

日本学術会議は、我が国の学術に関する重要事項を自主的に調査審議し、その実現を図る機関としての使命と役割を確認した上で、会員の科学的知見を結集し、時代の要請に即応しつつ将来を見通した基本的理念を確立し、我が国における学術研究の一層の推進を図るために、本会議の本来の目的を、次の視点から実現することが必要であると認識した。

人文・社会及び自然科学を網羅した日本学術会議は、全学問的視野に立ち、学術研究団体を基盤とする科学者の代表機関であることを認識して、全科学者の参加と意見の集約を真摯に図らなければならない。さらに、本会議が集約した科学者の意見が政策に反映するよう、他の学術関係諸機関と協議の上、その役割分担を明確にしつつ、これらとの連携の強化を図る必要がある。

また、学術研究団体を基盤とする日本学術会議は、関係ある学術研究団体等から推薦された科学者を中心として構成される研究連絡委員会の重要性を認識し、その活動を強化するとともに、学術研究団体の活動を助長し、研究基盤の強化を図り、高度化する学術の発展に貢献する必要がある。

我が国の科学者を内外に代表する機関である日本学術会

議は、国際社会における我が国の地位の向上と海外諸国の期待にこたえて、学術の分野における国際協力を飛躍的に拡大する必要がある。

日本学術会議は、真理を探究するという理念に立脚し、社会に開かれた学術の在り方と国際性を重視し、その健全な発展を図るため、学問・思想の自由の尊重と研究の創意への十分な配慮の下に、長期的かつ大所高所の視点に立ち、創造性豊かな研究を進展させることが必要である。

日本学術会議は、以上の諸点を踏まえ、科学者の総意を代表してその精神を高揚し、21世紀に向けて学術体制及び研究・開発の望ましい在り方を検討して、我が国の学術政策に指針を与えることにより、国民の期待にこたえるとともに、人類の福祉と世界の平和に貢献することを期するものである。

1. 重点目標

第14期活動計画の重点目標は、次のとおりとする。

(1) 人類の福祉・平和及び自然との係わりを重視する学術の振興

科学・技術の著しい発展は、人間生活を豊かにすると同時に、現代社会の高度な複雑化とあまって、人間社会に新たな緊張をもたらし、人類の福祉・平和及び自然環境を脅かすのではないかと懸念を招いている。人類の福祉・平和及び自然との係わりについて十分に配慮しつつ、学術の総合的振興を図ることは、21世紀へ向けての極めて重要な課題である。これは、人文・社会及び自然科学を網羅した本会議の特長を十分に発揮してこそ可能となるものである。学術の振興と発展の人間、社会及び自然への望ましい貢献、好ましくない影響の防止について具体的構想を樹立し、あわせてこれに対応する社会の体制整備に明確な指針を提示する。

なおまた、今日の社会的現実が提起している複雑な問題を解決するには、既成の個別的研究領域のみでは十分に対応し得ない。直接に関係する研究だけでなく、広く諸科学が積極的に関与すべきであることを十分に考慮し、多くの研究領域が、その独自性を保ち一層の深化を図るとともに、共同の努力を行い、研究の内容、学問体系の変革にまで進むことによって、総合的な研究の在り方を追求することが必要である。

(2) 基礎研究の推進と諸科学の整合的発展

学術の発展には、基礎研究の推進が不可欠であることは言をまたない。我が国の学術の国際的地位の確立を目指し、その発展に向けた長期展望・将来計画を策定するための基盤となる基礎研究の推進に、積極的に取り組む必要がある。

また、学術の領域は広範多岐であり、それぞれの領域ごとに方法論も異なり、研究者の求めるものに大きな違いがあることを十分に考慮し、それぞれの研究者の声を聞き、それぞれに適した育成策を講ずる必要がある。それと同時に、学術研究の動向を考慮し、いわゆる学際領域や学問の総合化に留意しつつ、諸科学の整合的発展を図ることが重要である。

以上のため、第13期においては、学術研究動向に関する調査研究を行い、我が国の学術水準の国際比較やその発展を阻害する諸因子などを指摘した。今期においては、この調査結果を検討しつつ、これを基礎にして、創造性の基礎となる個人の着想を重視し、革新的研究の強化等を積極的に図るとともに、一方においては、学術研究体制や社会・産業構造等に内在する創造性を阻む負の要因の解消に向けての建設的提言を行

うなど、学術の向上発達のための具体的方策を審議提言していくことが必要である。

(3) 国際関係の重視と国際的寄与の拡大

学術研究は、本来、真理の探究を目指す知的活動であり、その成果は広く人類共通の資産として共有されてきた。そのことから、学術の国際交流は、学術研究にとって内在的な要請であり、その在り方に常に関心を払う必要があることは言うまでもない。

一方で、我が国の国際的地位の向上に伴い、その学術研究が国際的貢献を果たすことに対する要請は、一層強まってきている。特に国際平和の推進や環境問題の解決等、いわゆる地球的あるいは国際的規模の課題について、我が国の研究を充実させつつ、全世界の科学者との協力を拡大することへの要請が増大してきている。

国際的あるいは二国間の共同研究、技術協力、技術移転等の在り方は、各国の政治、経済、社会に重大な影響を及ぼす。偏ったナショナリズムの立場を排しつつ、学術の健全な発展を促進するための国際的コンセンサスの追求に我が国も努力をするとともに、相互協力と相互依存の下での国際社会に対応していくために開かれた我が国自体の学術研究体制の整備が求められている。

以上のような状況から、本会議が築いてきた国際学術交流・協力の在り方についての諸原則と実績を踏まえつつ、学術の国際交流・協力の飛躍的な拡充強化を図り、国際的寄与を格段に拡大することが極めて重要である。

2. 具体的課題（要旨）

次の課題を選定した。

- (1) 科学者の倫理と社会的責任
- (2) 学術研究の長期的展望
- (3) 研究者の養成
- (4) 研究基盤の強化と研究の活性化
- (5) 学術情報・資料の整備
- (6) 学術研究の国際交流・協力の飛躍的拡大
- (7) 国際対応への積極的取組み
- (8) 平和及び国際摩擦
- (9) 人間の科学
- (10) 医療技術と社会
- (11) 生命科学と生命工学
- (12) 農業・農村問題
- (13) 資源・エネルギー問題
- (14) 人間活動と地球環境
- (15) 高度技術化社会

3. 具体的課題への対処及び臨時（特別）委員会設置の基本方針等（省略）

◆ 今回の総会決定により設置された特別委員会 ◆

- ・ 平和及び国際摩擦に関する特別委員会
- ・ 医療技術と社会に関する特別委員会
- ・ 生命科学と生命工学特別委員会
- ・ 農業・農村問題特別委員会
- ・ 資源・エネルギー問題特別委員会
- ・ 人間活動と地球環境に関する特別委員会
- ・ 高度技術化社会特別委員会

御意見・お問い合わせ等がありましたら下記までお寄せください。

〒106 港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話 03 (403) 6291

Acknowledgment to reviewers for Vol. 36.

The Editorial Board is grateful to the following reviewers for their cooperation in examining the manuscripts submitted to the Japanese Journal of Phycology Vol. 36.

R. ADACHI, T. AJISAKA, M. AKIYAMA, Y. ARUGA, M. CHIHARA, S. ENOMOTO, Y. FUKUYO, Y. HARA, T. HORI, T. IKAWA, I.S.-ISHIKAWA, K. IWASA, T. KATOH, K. KAWAI, H. KOBAYASI, S. KUMANO, M. MASUDA, K. MATSUYAMA, H. MIKAMI, S. MIYACHI, M. MIZUNO, H. NAKAHARA, K. NISHIZAWA, T. OFUSA, T. OKUDA, M. OHMORI, N. SAGA, T. SHINMEN, E. TAKAHASHI, M. TAKAHASHI, H. TAKAO, J. TANAKA, M. TATEWAKI, Y. TSUBO, T. UCHIDA, K. UEDA, I. UMEZAKI, M.M. WATANABE, Y. YOKOHAMA, T. YOSHIDA, M. YOSHIZAKI.

日本藻類学会事務局移転のお知らせ

昭和64・65年度の学会事務局は下記に変わります。

〒184 小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学教育学部生物学科内 (TEL. 0423-25-2111)

なお、投稿原稿の送付は下記宛てに行なって下さい。

〒108 東京都港区港南4-5-7

東京水産大学資源育成学科 (TEL. 03-471-1251)

有賀祐勝気付 日本藻類学会編集委員会

Change of Office and Editor

The new Editor of the Japanese Journal of Phycology for 1989-1990 is Yusho Aruga of Tokyo University of Fisheries. Starting in January 1989, manuscript for publication should be submitted directly to the Editor, **Prof. Y. Aruga, Tokyo University of Fisheries, Konan-4, Minato-ku, Tokyo, 108 Japan.**

Membership dues should be sent to **The Business Center for Academic Societies Japan, 4-16, Yayoi 2-chome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113, Japan,** and all other inquiries should be made to **The Japanese Society of Phycology, c/o Department of Biology, Tokyo Gakugei University, Nukui-kita-machi, Koganei-shi, Tokyo 184, Japan.**

賛助会員

北海道栽培漁業振興公社 060 札幌市中央区北3条西7丁目

北海道第二水産ビル4階

阿寒観光汽船株式会社 085-04 北海道阿寒郡阿寒町字阿寒湖畔

有限会社 シロク商会 260 千葉市春日1-12-9-103

海藻資源開発株式会社 160 東京都新宿区新宿1-29-8 財団法人公衆衛生ビル内

協和醗酵工業株式会社 研究開発本部商品開発部センター

100 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル

全国海苔貝類漁業協同組合連合会 108 東京都港区高輪2-16-5

K. K. 白壽保健科学研究所・原 昭邦 173 東京都板橋区大山東町32-17

有限会社 浜野頭微鏡 113 東京都文京区本郷5-25-18

株式会社ヤクルト本社研究所 189 東京都国立市谷保1769

山本海苔研究所 143 東京都大田区大森東5-2-12

弘学出版株式会社 森田悦郎 214 川崎市多摩区南生田6-16-12

田崎真珠株式会社 田崎海洋生物研究所 779-23 徳島県海部郡日和佐町外ノ牟井

神協産業株式会社 742-15 山口県熊毛郡田布施町波野962-1

理研食品株式会社 985 宮城県多賀城市宮内2丁目5番60号

海藻を総括的に論じた待望の書!!

海藻資源養殖学

徳田 廣 大野 正夫 小河 久朗 著
(東京大学農学部) (高知大学農学部) (東北大学農学部)

B5判 上製 口絵4頁
本文354頁 付・用語集

定価5,500円(送350円)

海藻の資源や養殖について初めて総括的に取揚げた待望の書。ノリを始めとする個々の海藻養殖の現状と将来展望から、藻場造成、利用法、海外での養殖、新しい海藻の養殖法、新品種形成の現状まで、実に幅広い観点から論じ尽した海藻入門の決定版。研究者・学生・養殖業者の熱い要望に応えて遂に刊行!!

——— 主要目次 ———

I.地球生態系と海藻 II.海藻の生育環境 III.海藻の利用 IV.世界の海藻資源と生産量 V.現在の海藻養殖 VI.藻場造成 VII.海外の海藻養殖の現状 VIII.海藻養殖の将来と展望

〒171 東京都豊島区池袋2-14 池袋西口スカイビル
☎販売03-590-4441(直) 振替/東京4-2758・6-80496

(株)緑書房

最先端と素敵な出合

データベースでダイナミックプリンティングコミュニケーション

富士通 OASYS

NEC PC-9801

入力装置
ドット文字



富士通 NEC
9450シリーズ PC-9801

写研

美しい
文字

生まれかわるデータベース

会員管理・名簿管理・調査票発送・集計・印刷・請求・販売促進・検索

CコーポレートIアイデンティティで企業発展に貢献する

日本印刷出版株式会社

■本社 〒553 大阪市福島区吉野1丁目2番7号/TEL 06-441-6594(代)
■電算室 〒553 大阪市福島区吉野1丁目3番18号

好評発売中

自然の中の藻類の「生きている姿」を知るために

藻類の生態

秋山 優・有賀祐勝 共編
坂本 充・横浜康継

A5判 640頁
定価12800円(〒400円)

1 水界生態系における藻類の役割—有賀祐勝* 2 水界環境と藻類の生理—藤田善彦* 3 藻類の生活圏—秋山優* 4 海洋植物プランクトンの生産生態—有賀祐勝* 5 湖沼における植物プランクトンの生産と動態—坂本充* 6 自然界における藻類の窒素代謝—和田英太郎* 7 植物プランクトンの異常増殖—飯塚昭二* 8 海藻の分布と環境要因—横浜康継* 9 河川底生藻類の生態—小林弘* 10 汽水域の藻類の生態—大野正夫* 11 土壌藻類の生態—秋山優* 12 海中の藻類の生態—星合孝男* 13 藻類と水界動物の相互作用—成田哲也* 14 藻のバゾジーン—山本鈴子* 15 藻類の細胞外代謝生産物とその生態的役割—大和田紘一* 16 藻類の生活史と生態—中原紘之* 17 藻類群集の構造と多様性—宝月欣二 各章末に掲載の多数の文献は読者にとって貴重な資料となろう。

シートでみる種の同定・分類 700種が揃う

山岸高旺・秋山優編集

淡水藻類写真集

各B5判・各100シート・ルーズリーフ式
第1・2巻 定価各4000円
第3～7巻 定価各5000円

Photomicrographs of the Fresh-water Algae

以下継続 (送料各350円)

発売中

未来の生物資源ユーカリ

—そのバイオテクノロジーとバイオサイエンス—

西村弘行編
A5判・304頁
定価5800円

発売中

レプトスピラ症防疫指針

吉井善作監訳
B5判・224頁
定価3500円

南の動物誌

—熱帯森林に生きる—

渡辺弘之著 熱帯森林を専攻する著者が、熱帯地域の動植物の生活を写真を中心に語る。定価1300円

世界の珍草奇木

—植物に見る生命の神秘—

川崎 勉著 自然界の重要な仲間植物群、強い生命力と環境への適応力を感激の筆で語る。定価1300円

近刊

河川の珪藻

B5判

小林 弘著

日本淡水藻図鑑

廣瀬弘幸・山岸高旺編 日本ではじめて創られた本格的な図鑑。淡水藻類の研究者や水に関係する方々にとっては貴重な文献である。定価36,000円

藻類学総説

廣瀬弘幸著 藻類の分類と形態を重点に置いて、克明な図により丁寧に解説する。定価10000円

植物組織学

猪野俊平著 植物組織学の定義・内容・発達史から研究方法を幅広く詳述した唯一の書。定価15000円

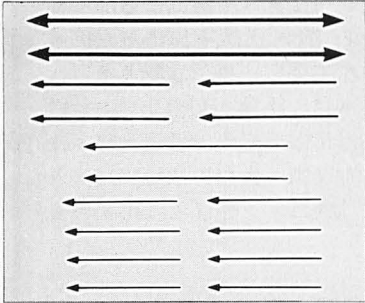
内田老鶴圃

東京・文京区大塚 3-34-3 / Tel 03-945-6781 FAX 03-945-6782

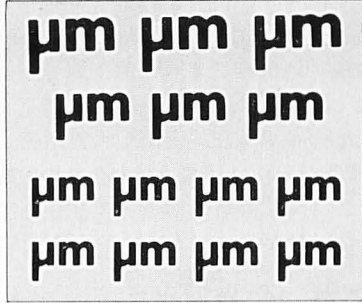
新製品ご案内!!

レタリングシート (ブラック アンド ホワイト)

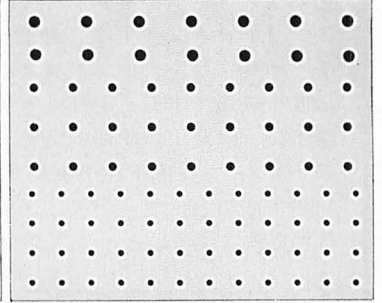
EMI NO. 82014



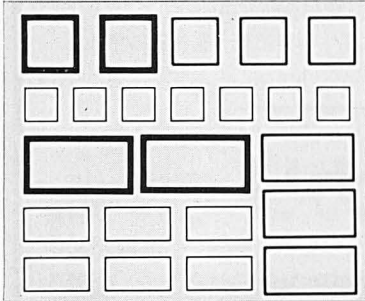
EMI NO. 82016



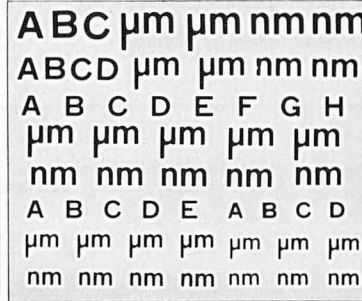
EMI NO. 86626



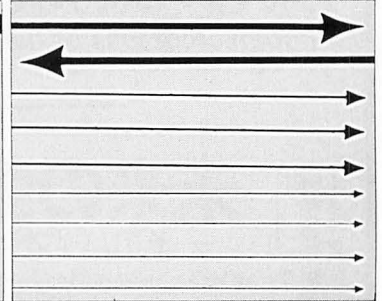
EMI NO. 86627



EMI NO. 86902

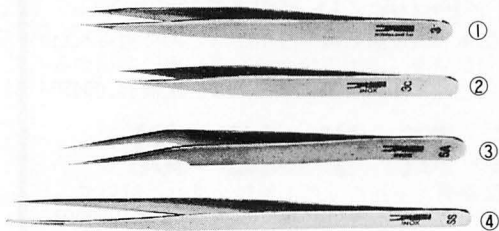


EMI NO. 86916



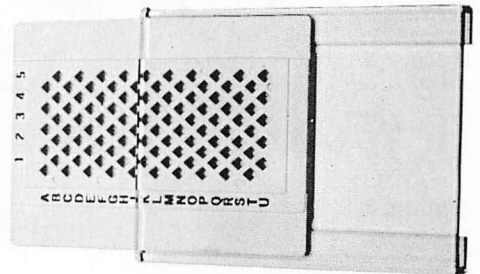
※レタリングシートの総合カタログができました。下記の住所へカタログをご請求下さい。

西独製 精密ピンセット



- ①時計ピンセット
 - ②3Cピンセット
 - ③5型変形ピンセット
 - ④SS型ピンセット
- 各1本：¥2,200

EMグリッドボックス



1個：¥1,800 10個：¥15,000



EM資材直販センター

〒274 千葉県船橋市三山5-6-1 TEL.0474(75)5783
東京営業所：TEL.03(988)9906

The Japanese Journal of PHYCOLOGY

Volume 36, 1988

Contents

No. 1 (10 March)

- Gerald T. Kraft:** *Seirospora orientalis* (Callithamnaceae, Ceramiales), a new red algal species from the southern Great Barrier Reef [**Gerald T. Kraft:** グレートバリアリーフ産 *Seirospora orientalis* (新種) について] 1-11
- Kazuko Ohmori and Masayuki Ohmori:** Ammonium assimilation in the blue-green alga, *Spirulina platensis* [大森和子・大森正之: 藍藻 *Spirulina platensis* におけるアンモニア同化] 12-16
- Shigemitsu Hara and Eiji Takahashi:** Seasonal change of planktonic protista collected from Shioya Coast, Osaka Bay [原 成光・高橋永治: 大阪湾塩屋海岸における原生生物群集の季節的変動] 17-23
- Yoshihiko Sakanishi, Yasutsugu Yokohama and Yusho Aruga:** Photosynthesis measurement of blade segments of brown algae *Ecklonia cava* KJELLMAN and *Eisenia bicyclis* SETCHELL [坂西芳彦・横浜康継・有賀祐勝: カジメおよびアラメの葉片を用いた光合成の測定] 24-28
- 横浜康継・前川行幸: プロダクトメーター (差動式検容計) による大型試料の光合成及び呼吸の測定 [**Yasutsugu Yokohama and Miyuki Maegawa:** Measurement of photosynthesis and respiration of large samples by 'Productmeter', a differential gasvolumeter] 29-36
- 山本民次・高尾允英: スサビノリ *Porphyra yezoensis* 葉体のアンモニア態および硝酸態窒素の取り込みに及ぼす温度の影響 [**Tamiji Yamamoto and Masahide Takao:** Effects of temperature on the uptake kinetics of ammonia-N and nitrate-N by *Porphyra yezoensis* thalli] 37-42
- 三上日出夫: ヤレウスバノリ (紅藻, コノハノリ科) について [**Hideo Mikami:** Studies on *Acrosorium flabellatum* YAMADA (Delesseriaceae, Rhodophyta)] 43-47
- 藤田大介: *Fostiella zostericola* モカサ (紅藻, サンゴモ科) の培養 [**Daisuke Fujita:** *Fostiella zostericola* (FOSLIE) SEGAWA (Rhodophyta, Corallinales) in culture] 48-51
- 小亀一弘・吉田忠生: 日本新産緑藻 *Bolbocoleon piliferum* PRINGSHEIM (Chaetophoraceae, Chlorophyta) についての観察 [**Kazuhiro Kogame and Tadao Yoshida:** Observations on *Bolbocoleon piliferum* PRINGSHEIM (Chaetophoraceae, Chlorophyta) newly found in Japan] 52-54
- 川嶋昭二: 多国産コンブ目植物の漂着記録(4) チシマサツマタコンブについて [**Shoji Kawashima:** Drifting records of alien species of the Laminariales (4) *Laminaria subsimplex* MIYABE et NAGAI] 55-56
- Cristine A. Orosco**・大野正夫: フィリッピン・セブ島における海藻の利用 [**Christine A. Orosco and Masao Ohno:** Utilization of seaweeds in Cebu Island, Central Visayas, the Philippines] 57-58
- 榎本幸人: 神戸大学理学部付属臨海実験所 [**Sachito Enomoto:** Marine Biological Station, Faculty of Science, Kobe University] 59-60
- 西沢一俊: 海藻の生産と利用の国際講習会 [**Kazutoshi Nishizawa:** Workshop on seaweeds production and utilization at Qingdao] 64
- 高村典子: 藍藻による水の華, 特に *Microcystis* 属の生態学的研究の現状 [**Noriko Takamura:** Ecology of water-bloom of blue-green algae, with special reference to *Microcystis*] 65-79
- 訃報 [Obituary] 61-63
- 新刊紹介 [Book Review] 80-81
- ニュース [News] 82-83
- 学会録事 [Announcement] 84

日本藻類学会第12回大会講演要旨〔Proceedings of the XIIth Annual Meeting of the Japanese Society of Phycology〕	87-110
--	--------

No. 2 (20 June)

Terumitsu Hori: Ultrastructure of gametes and gametic fusion in <i>Bryopsis maxima</i> OKAMURA (Chlorophyceae)〔堀 輝三: オオハネモ (緑藻綱) の配偶子および配偶子接合の微細構造〕	113-126
Celia M. Smith and James N. Norris: Structure and occurrence of spermatangia in Caribbean <i>Bostrychia montagnei</i> HARVEY and <i>B. binderi</i> HARVEY (Rhodomeleaceae, Ceramiales)〔Celia M. Smith and James N. Norris: カリブ海産 <i>Bostrychia montagnei</i> HARVEY と <i>B. binderi</i> HARVEY (フジマツモ科, イギス目) における精子嚢の存在と構造〕	127-137
Toshihiko Kudo and Michio Masuda: Taxonomic notes on <i>Polysiphonia seticulosa</i> HARVEY and <i>P. pungens</i> HOLLENBERG (Ceramiales, Rhodophyta)〔工藤利彦・増田道夫: 紅藻 <i>Polysiphonia seticulosa</i> HARVEY と <i>P. pungens</i> HOLLENBERG (フジマツモ科, イギス目) について〕	138-142
Hiroyuki Ito: Scale-bearing chrysophytes in the south basin of Lake Biwa, Japan〔伊藤裕之: 琵琶湖南湖の鱗片を有する黄金藻〕	143-153
Kho Maruyama: Spatial differences in <i>Cyclotella comta</i> populations in the Nishinankō Lakes, Nagano Prefecture, Japan〔丸山 晃: 仁科三湖における <i>Cyclotella comta</i> 集団の地域的な差異〕	154-165
Miyuki Maegawa, Washiro Kida, Yasutsugu Yokohama and Yusho Aruga: Comparative studies on critical light conditions for young <i>Eisenia bicyclis</i> and <i>Ecklonia cava</i> 〔前川行幸・喜田和四郎・横浜康継・有賀祐勝: 褐藻アラメおよびカジメ幼体の光要因からみた生育限界の比較〕	166-174
Masahiro Notoya: Tissue culture from the explant of <i>Ecklonia stolonifera</i> OKAMURA (Phaeophyta, Laminariales)〔能登谷正浩: ツルアラメの組織培養〕	175-177
J. Carl Stapleton: Occurrence of <i>Undaria pinnatifida</i> (HARVEY) SURINGAR in New Zealand〔J. Carl Stapleton: ニューゼランドのウェリントン港におけるワカメ <i>Undaria pinnatifida</i> (HARVEY) SURINGAR の出現〕	178-179
学会録事〔Announcement〕	180-185
学会会則〔Regulations of the Society〕	186
投稿案内〔Information for authors〕	187-188

No. 3 (20 September)

Megumi Okazaki and Mieko Tokida: Calcification of <i>Chara braunii</i> (Charophyta) caused by alkaline band formation coupled with photosynthesis〔岡崎恵親・時田三恵子: 光合成に共役したアルカリ・バンド形成に基づくシャジクモの石灰化〕	193-201
Kyoko Takahashi and Tomoyoshi Ikawa: The characteristics of photosynthesis and carbon metabolism in <i>Heterosigma akashiwo</i> (Raphidophyceae)〔高橋京子・猪川倫好: ラフィド藻 <i>Heterosigma akashiwo</i> における光合成炭素代謝特性〕	202-211
Kyoko Takahashi and Tomoyoshi Ikawa: Effects of nitrogen starvation on photo-synthetic carbon metabolism in <i>Heterosigma akashiwo</i> (Raphidophyceae)〔高橋京子・猪川倫好: ラフィド藻 <i>Heterosigma akashiwo</i> の光合成炭素代謝に及ぼす窒素欠乏の影響〕	212-220
Kentaro Watanabe: Sub-ice microalgal strands in the Antarctic coastal fast ice area near Syowa Station〔渡辺研太郎: 南極昭和基地周辺定着氷下にみられたヒモ状微細藻類群体〕	221-229
Michio Masuda and Kyo Horiuchi: Additional notes on the life history of <i>Nemalion vermiculare</i> SURINGAR (Nemaliales, Rhodophyta)〔増田道夫・堀内 京: 紅藻ウミゾウメンの生活史についての続報〕	231-236
三上日出夫: 台湾産ヒメバシヨウ (紅藻, コノハノリ科) の原標本について〔Hideo Mikami: On the original specimens of <i>Neoholmesia neurymenioides</i> (OKAMURA) WYNNE (Delesseriaceae, Rhodophyta) from Taiwan〕	241-245

- Shigeru Kumano:** Sexual reproductive organs of *Bostrychia flagellifera* Post (Ceramiales, Rhodophyta) from Japan [熊野 茂: *Bostrychia flagellifera* Post (イギス目・紅藻植物) の有性生殖器官] 237-240
- Yoshihiro Matsuda:** The *Chlamydomonas* cell wall and their degrading enzymes [松田吉弘: クラミドモナスの細胞壁とその溶解酵素] 246-264
- 新刊紹介 [Book review] 220, 229, 230
- 学会録事 [Announcement] 265-269

No. 4 (10 December)

- Richard E. Norris:** The specific identity of *Neurymenia* (Rhodophyceae, Rhodomelaceae) in southeastern Africa [Richard E. Norris: アフリカ東南部産のイソバシヨウ属 *Neurymenia* (紅藻, フジマツモ科) について] 271-276
- Masahiko Idei and Hiromu Kobayasi:** A light and electron microscopic study of the benthic diatom *Diploneis marginestriata* HUST. (Bacillariophyceae) [出井雅彦・小林 弘: 底生珪藻 *Diploneis marginestriata* HUST. の光顕及び電顕による研究] 277-284
- Arthur Michio Nonomura:** *Botryococcus braunii* var. *showa* (Chlorophyceae) from Berkeley, California, United States of America [Arthur Michio Nonomura: カリフォルニア・パークレイ産緑藻の新変種 *Botryococcus brunii* var. *showa* について] 285-291
- John J. West and Hilconida P. Calumpong:** Mixed-phase reproduction of *Bostrychia* (Ceramiales, Rhodophyta) in culture. I. *B. tenella* (LAMOUROUX) J. AGARDH [John A. West and Hilconida P. Calumpong: 室内培養におけるコケモドキ属 (紅藻, イギス目) の mixed-phase reproduction I. コケモドキについて] 292-310
- Kazumi Matsuoka, Yasuwo Fukuyo and Donald M. Anderson:** The cyst and theca of *Gonyaulax verior* SOURNIA (Dinophyceae) and their implication for the systematics of the genus *Gonyaulax* [松岡数充・福代康夫・Donald M. Anderson: *Gonyaulax verior* SOURNIA のシスト, 有殻細胞と *Gonyaulax* 属の分類学的意義] 311-320
- Miyuki Maegawa, Washiro Kida and Yusho Aruga:** A demographic study of the sublittoral brown alga *Ecklonia cava* KJELLMAN in coastal water of Shima Peninsula, Japan [前川行幸・喜田和四郎・有賀祐勝: 三重県志摩半島沿岸におけるカジメ (褐藻) の生命表解析] 321-327
- 佐藤博雄・山口征矢: 染色法による微細藻類の生細胞と死細胞の判別 [Hiroo Satoh and Yukuya Yamaguchi: Discrimination between live and dead cells in microalgal assemblages by a staining technique] 328-330
- 市村輝宣: 第3回国際藻類学会議報告 [Terunobu Ichimura: A report on the Third International Phycological Congress] 331-332
- 日本藻類学会秋季シンポジウム講演要旨 [Abstracts of the Symposium of the Japanese Society of Phycology] 333-334
- ニュース [News] 284, 310
- 新刊紹介 [Book Review] 320, 330
- 学会録事 [Announcements] 335-340
- 学会事務局と編集事務局の所在地の移転 [Change of office and editor] 341
- 第36巻総目次 [Contents of Volume 36] i-iii

学 会 出 版 物

下記の出版物をご希望の方に頒布致しますので、学会事務局までお申し込み下さい。(価格は送料を含む)

1. 「藻類」バックナンバー 価格、会員各号1,750円、非会員各号3,000円、30巻4号(創立30周年記念増大号、1-30巻索引付)のみ会員5,000円、非会員7,000円、欠号: 1-2号, 4巻1. 3号, 5巻1-2号, 6-9巻全号。
2. 「藻類」索引 1-10巻, 価格, 会員1,500円, 非会員2,000円, 11-20巻, 会員2,000円, 非会員3,000円, 創立30周年記念「藻類」索引, 1-30巻, 会員3,000円, 非会員4,000円。
3. 山田幸男先生追悼号 藻類25巻増補. 1977. A5版, xxviii+418頁. 山田先生の遺影・経歴・業績一覧・追悼文及び内外の藻類学者より寄稿された論文50編(英文26, 和文24)を掲載. 価格7,000円。
4. 日米科学セミナー記録 Contributions to the systematics of the benthic marine algae of the North Pacific. I. A. Abbott・黒木宗尚共編. 1972. B5版, xiv+280頁, 6図版. 昭和46年8月に札幌で開催された北太平洋産海藻に関する日米科学セミナーの記録で, 20編の研究報告(英文)を掲載. 価格4,000円。
5. 北海道周辺のコンブ類と最近の増養殖学的研究 1977. B5版, 65頁. 昭和49年9月に札幌で行なわれた日本藻類学会主催「コンブに関する講演会」の記録. 4論文と討論の要旨. 価格1,000円。

Publications of the Society

Inquiries concerning copies of the following publications should be sent to the Japanese Society of Phycology, c/o **Division of Tropical Agriculture, Faculty of Agriculture, Kyoto University, Kitashirakawa-oiwakecho, Sakyo-ku, Kyoto, 606 Japan.**

1. **Back numbers of the Japanese Journal of Phycology** (Vols. 1-28, Bulletin of Japanese Society of Phycology). Price, 2,000 Yen per issue for member, or 3,500 Yen per issue for non member, price of Vol. 30, No. 4 (30th Anniversary Issue), with cumulative index (Vols. 1-30), 6,000 Yen for member, or 7,500 Yen for non member. Lack: Vol. 1, Nos. 1-2; Vol. 4, Nos. 1, 3; Vol. 5, Nos. 1-2; Vol. 6-Vol. 9, Nos. 1-3 (incl. postage, surface mail).
2. **Index of the Bulletin of Japanese Society of Phycology.** Vol. 1 (1953)-Vol. 10 (1962) Price 2,000 Yen for member, 2,500 Yen for non member, Vol. 11 (1963)-Vol. 20 (1972), Price 3,000 Yen for member, 4,000 Yen for non member. Vol. 1 (1953)-Vol. 30 (1982). Price 4,000 Yen for member, 5,000 Yen for non member (incl. postage, surface mail).
3. **A Memorial Issue Honouring the late Professor Yukio Yamada** (Supplement to Volume 25, the Bulletin of Japanese Society of Phycology). 1977. xxviii+418 pages. This issue includes 50 articles (26 in English, 24 in Japanese with English summary) on phycology, with photographs and list of publications of the late Professor Yukio YAMADA. ¥ 8,500 (incl. postage, surface mail).
4. **Contributions to the Systematics of the Benthic Marine Algae of the North Pacific.** Edited by I. A. ABBOTT and M. KUROGI, 1972. xiv+280 pages, 6 plates. Twenty papers followed by discussions are included, which were presented in the U.S.-Japan Seminar on the North Pacific benthic marine algae, held in Sapporo, Japan, August 13-16, 1971. ¥ 5,000 (incl. postage, surface mail).
5. **Recent Studies on the Cultivation of *Laminaria* in Hokkaido** (in Japanese). 1977. 65 pages. Four papers followed by discussions are included, which were presented in a symposium on *Laminaria*, sponsored by the Society, held in Sapporo, September 1974. ¥ 1,200 (incl. postage, surface mail).

昭和63年12月5日 印刷
昭和63年12月10日 発行

©1983 Japanese Society of Phycology

禁 転 載
不 許 複 製

編集兼発行者

坪 由 宏

〒 657 神戸市灘区鶴甲 1-2-1
神戸大学教養部生物学教室内
Tel. 078-381-1212

印 刷 所

日本印刷出版株式会社

〒 553 大阪市福島区吉野 1-2-7

発 行 所

日 本 藻 類 学 会

〒 606 京都市左京区北白川追分町
京都大学農学部熱帯農学専攻内
Tel. 075-753-6355

Printed by Nippon Insatsu Shuppan Co., Ltd.

本誌の出版費の一部は文部省科学研究費補助金「研究成果公開促進費」による。

Publication of The Japanese Journal of Phycology has been supported in part by a Grant-in-Aid for Publication of Scientific Research Result from the Ministry of Education, Science and Culture, Japan.

藻類

目次

Richard E. Norris: アフリカ東南部産のイソバシヨウ属 *Neurymenia* (紅藻, フジマツモ科) について..... (英文) 271

出井雅彦・小林 弘: 底生珪藻 *Diploneis marginestriata* HUST. の光顕及び電顕による研究 (英文) 277

Arthur Michio Nonomura: カリフォルニア・パークレイ産緑藻の新変種 *Botryococcus barunii* var. *showa* について..... (英文) 285

John A. West and Hilconida P. Calumpong: 室内培養におけるコケモドキ属 (紅藻, イギス目) の mixed-phase reproduction I. コケモドキについて..... (英文) 292

松岡数充・福代康夫・**Donald M. Anderson:** *Gonyaulax verior* SOURNIA のシスト, 有殻細胞と *Gonyaulax* 属の分類学的意義..... (英文) 311

前川行幸・喜田和四郎・有賀祐勝: 三重県志摩半島沿岸におけるカジメ (褐藻) の生命表解析..... (英文) 321



ノート

佐藤博雄・山口征矢: 染色法による微細藻類の生細胞と死細胞の判別..... 328

市村輝宣: 第3回国際藻類学会議報告..... 331



日本藻類学会秋季シンポジウム講演要旨..... 333

ニュース..... 284, 310

新刊紹介..... 320, 330

学会録事..... 335

学会事務局と編集事務局の所在地の移転..... 341

第36巻総目次..... i-iii